

表 シカゴ連銀経済報告(2022年1月12日公表)

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は控えめに(at a modest pace)増加 賃金は堅調に(robustly)上昇	熟練、非熟練を問わず労働者を見つけるのが困難な状況が続いており、新規雇用者の中には、予定した初日に出社しなかったり、すぐに辞めてしまったりする人がいるとの報告もみられた。また、多くの企業が、特にレストラン、小売業、製造業において、労働者不足のために営業時間を制限し続けている。一部の関係者は、ワクチン接種の要件が労働力の供給を制限する可能性について懸念を示した。募集職種への応募者が少ないため、多くの企業が賃金の引き上げに踏み切ったが、全ての企業が募集職種を満たすことができたわけではなく、労働者を引き止めるため、多くの企業は昇給の頻度を増やした。通常より多額の昇給やボーナスの支給を実施していると回答した企業もあった。
物価	全体的に急速に(rapidly)上昇	生産者価格は、材料費、労務費、輸送費などのコスト上昇の転嫁により大きく上昇した。しかし、一部の投入価格、特にエネルギーと一部の鉄鋼製品については、年初に非常に大きな上昇を示した後、安定していることが報告されている。消費者価格は概して堅調に推移し、堅調な需要、限られた在庫、コスト上昇、コスト上昇分の顧客への転嫁能力の向上が上昇要因として挙げられた。
個人消費	控えめに(modestly)増加	年末年始の支出は予想通り、もしくは若干上回り、食料品やペット用品、木材や建材への支出増が報告された。アパレル、家具、家電の各カテゴリーは引き続き高い売上げを記録した。また、中古品店やディスカウントストアの売上げも好調だった。家電製品については、在庫が逼迫し、小幅な減少にとどまった。小型自動車の販売台数は、ほとんど変化がなかった。在庫は小幅に増加したものの、低水準で推移しているため、販売台数は引き続き制限されている。ディーラーの利益率は、車両価格の高騰とサービス部門の活動増加の両方を反映し、引き続き高い水準となった。レジャー・サービス業は、全体的に横ばいだったが、レストランへの支出は小幅に増加した。
企業支出	控えめに(modestly)増加	小売在庫は、国内外のサプライチェーンの課題により多くの分野で低水準にとどまっており、2022年後半まで続くと思われる。製造業の在庫はほとんど変化せず、依然としてひっ迫しており、特に一部の金属、化学品、電気部品など、さまざまな資材が不足している。輸送サービスに対する需要については、多くの関係者から国内外での船舶の遅延や貨物・運賃の高騰が続いていると報告されているものの、依然として高い水準を維持している。設備投資は緩やかに増加しており、技術的なアップグレード(新しい自動化装置など)や施設の拡張が目立つ。設備投資は今後1年間も同様に増加する見込み。住宅および商業でのエネルギー消費は、特にレジャー・ホスピタリティ業界でわずかに増加したが、工業用消費はわずかに減少した。
建設と不動産	横ばい	住宅建築は活気がなく、不動産はわずかに落ち込んだが、景気と新型コロナウイルスをめぐる不確実性が減速の一因となったとの報告がみられた。住宅価格と賃料は小幅に上昇した。非住宅用の建築は堅調に推移したが、長いリードタイムと労働力不足が続いているとの報告があった。商業用の不動産はわずかに増加し、産業用および多世帯住宅の動きが引き続き小売業やオフィス業を上回った。商業用不動産の販売と価格はわずかに上昇。商業用不動産の賃料と空室率は横ばいだったが、サブリース可能なスペースは増加した。
製造業	わずかに(slightly)増加	多くの企業が未処理受注の増加を報告している。大多数の製造業者において需要は旺盛だったものの、労働力を中心とした投入資材の確保が難しく、生産能力の制約が続いているため、生産の増加は限定的だった。自動車生産台数については、組立メーカーやサプライヤーが引き続きマイクロチップやその他の資材不足に直面しており、わずかな増加にとどまった。大型トラックの需要は引き続き高い状態にあるが、新車の生産台数は変わっていないため、中古車価格が上昇している。鉄鋼需要は、各社ともほとんど変化がなく、堅調に推移している。稼働率が上昇したため、鉄鋼製品は若干入手しやすくなった。建材需要は、商業・住宅建設向けの堅調な受注に支えられ、高水準で横ばいとなった。
金融	横ばい	ビジネスローン需要はわずかに増加し、特に商業用不動産、設備、商業貸付が好調だった。また、ビジネスローンの借り換えが増加しているとの報告もみられた。ビジネスローンの質はわずかに低下し、基準は緩和された。消費者市場では、ローン需要はローンの質および基準と同様に横ばいとなった。
農業	所得は大幅に(strongly)向上	トウモロコシや大豆の高値および豊作により、2021年の農業所得は好調に推移した。農業関連の金融機関は、信用の質に関して問題はほとんどなかったと報告した。資材価格の伸びが農産物価格の伸びを上回っており、また農家はこの傾向が続くと予想しているため、2022年の所得は2021年より低くなるとみられている。また、その他の資材価格や入手可能性についても懸念があり、2022年の供給を確保するための先渡契約も急増した。トウモロコシと大豆の価格は、南米の天候問題やエタノール生産の回復により上昇。牛、豚、卵、乳製品の価格も上昇し、農地価格は急激な上昇基調のままとなった。

(出所)シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成